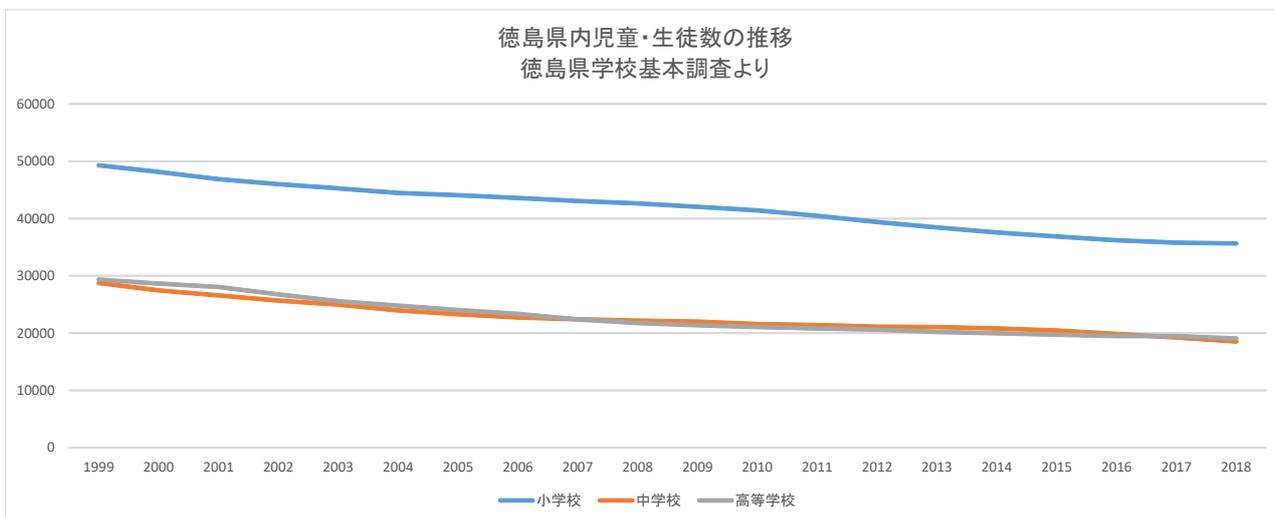


【表1】徳島県の児童・生徒数の推移 ※徳島県学校基本調査より

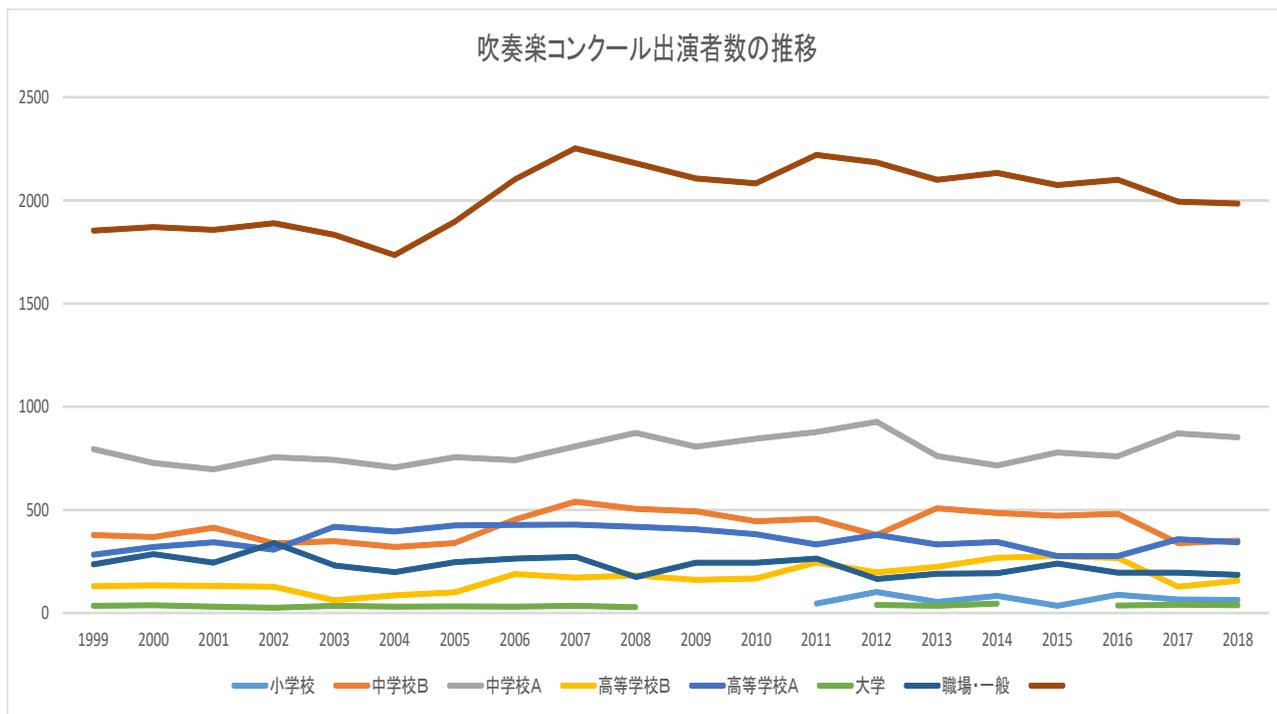
年度	1999	2004	2009	2014	2018	増減	減少率
小学校	49,309人	44,466人	42,041人	37,560人	35,645人	-13,664人	-28%
中学校	28,766人	23,953人	22,010人	20,453人	18,534人	-10,232人	-36%
高等学校	29,342人	24,788人	21,355人	19,983人	19,075人	-10,267人	-35%



各加盟団体の構成人数を把握していないため、当連盟が主催している事業で最も参加人数の多い吹奏楽コンクールの出場者数で20年間のデータを見てみると、県内の吹奏楽人口はほとんど減らすことなく推移していることがわかる【表2】。大会の実施規定の変更で各部門の参加人数の上限が変更になることがあったが、ほとんどの部門で参加人数の増加となっている。中学校B部門は参加人数の上限が35人から30人、そして2年前から20人に変更になったことが大きく影響している。中学校B部門に出場している団体の多くが、県南や県西部の学校である。

【表2】吹奏楽コンクール出場者数の推移

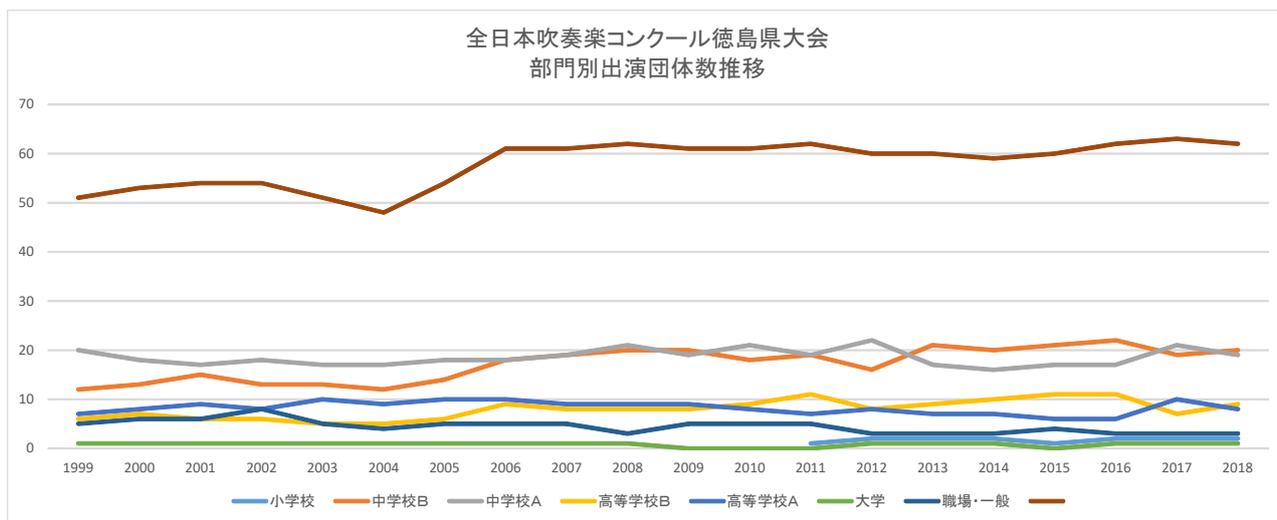
年度	1999	2004	2009	2014	2018	増減
小学校				83人	63人	+63人
中学校B	377人	320人	492人	485人	351人	-26人
中学校A	794人	705人	806人	715人	851人	+57人
高等学校B	130人	86人	160人	268人	156人	+26人
高等学校A	283人	395人	406人	344人	342人	+59人
大学	35人	30人		45人	37人	+2人
職場・一般	235人	198人	243人	193人	185人	-50人
	1,854人	1,734人	2,107人	2,133人	1,985人	+29人



吹奏楽コンクール参加団体数を見てみると、出演者数の増加と同じく参加団体数も増加している【表3】。この一因として、顧問の定期異動によって、赴任校で新たに吹奏楽部を立ち上げることが大きく影響している。ここにはデータとして掲載していないが、徳島県の小学校の金管バンドや鼓笛隊など、楽器が整備されている学校の割合が全国でもトップクラスであり、運動会や地域の催し物の演奏など、地域社会に貢献している。その影響で、中学校では小学校での楽器経験者が多く、継続して中学校でも楽器を演奏したいと希望が強い。郡部に中学校の大規模校が少ないが、熱心な顧問・指導者が多く、一昨年も中学校で新たに加盟校が増えている。この部門の中で、小学校部門は、全国大会や四国支部大会につながらない部門であり、徳島県独自の部門である。この部門の設置には、小学校加盟団体からの「体育館では無く、ステージ審査されたい」と強い要望があり、新たに実施することになった。大学部門は、全国的に参加団体数が減少の一途をたどっているが、四国内で四国大学吹奏楽団のみが4年制大学で加盟して出場し続けている。

【表3】 出場団体数の推移

	1999	2004	2009	2014	2018	増減
小学校				2	2	+2
中学校B	12	12	20	20	20	+8
中学校A	20	17	19	16	19	-1
高等学校B	6	5	8	10	9	+3
高等学校A	7	9	9	7	8	+1
大学	1	1	0	1	1	±0
職場・一般	5	4	5	3	3	-2
合計	51	48	61	59	62	+11

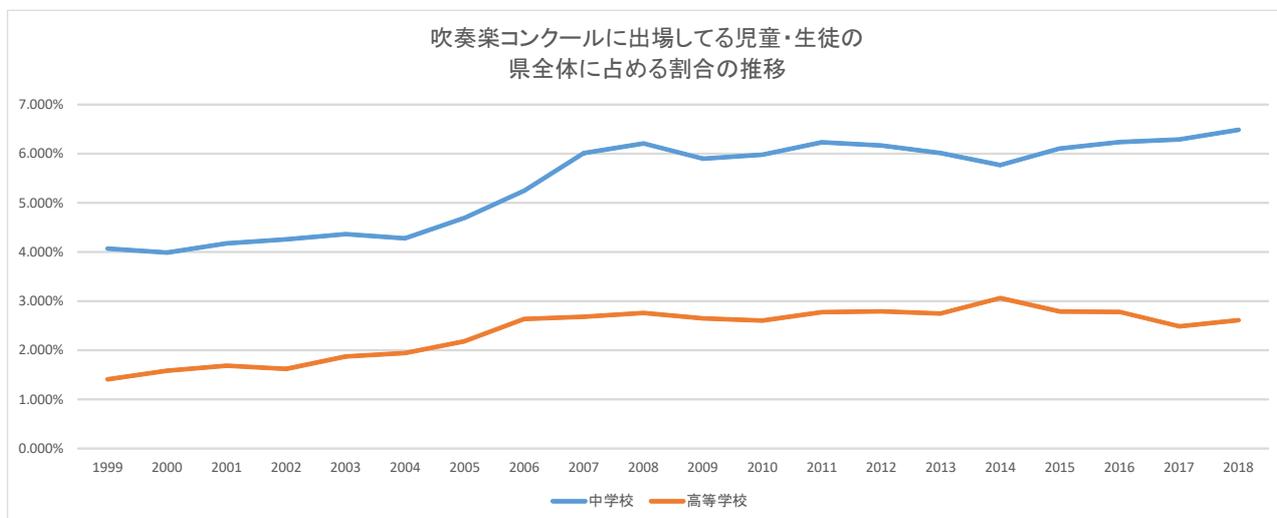


そして、徳島県内児童・生徒数に占める吹奏楽コンクールに出場している生徒数の割合は、20年前に比べて中学校が1.6倍、高等学校が1.9倍と高い数値を出している【表4】。これは、学校内で全校生徒数に占める吹奏楽部員が多いことを表している。多くの学校関係者の努力と、地域社会と保護者の理解があると思われる。また、学生時代に楽器に触れていた児童・生徒が保護者になり、吹奏楽に理解があることも要因と考えられる。それは、四国大会を主管した時に実感することができる。コンクールやコンテストの四国支部大会は基本的に4年に一回徳島県で開催される。回を重ねる毎に一般客用の入場券の売れ行きが良くなり、入場制限をとる時間が増えている。

しかし、この20年間に、統廃合や生徒数減少のため、部活動が継続できなくなった学校を忘れることはできない。四国支部大会で優秀な成績を収めていた、神山町立神山中学校や東祖谷山村立東祖谷中学校などである。

【表4】吹奏楽コンクールに出場している児童・生徒の県全体に占める割合の推移

	1999	2004	2009	2014	2018
中学校	4.071%	4.279%	5.897%	5.769%	6.485%
高等学校	1.408%	1.874%	2.650%	3.063%	2.611%

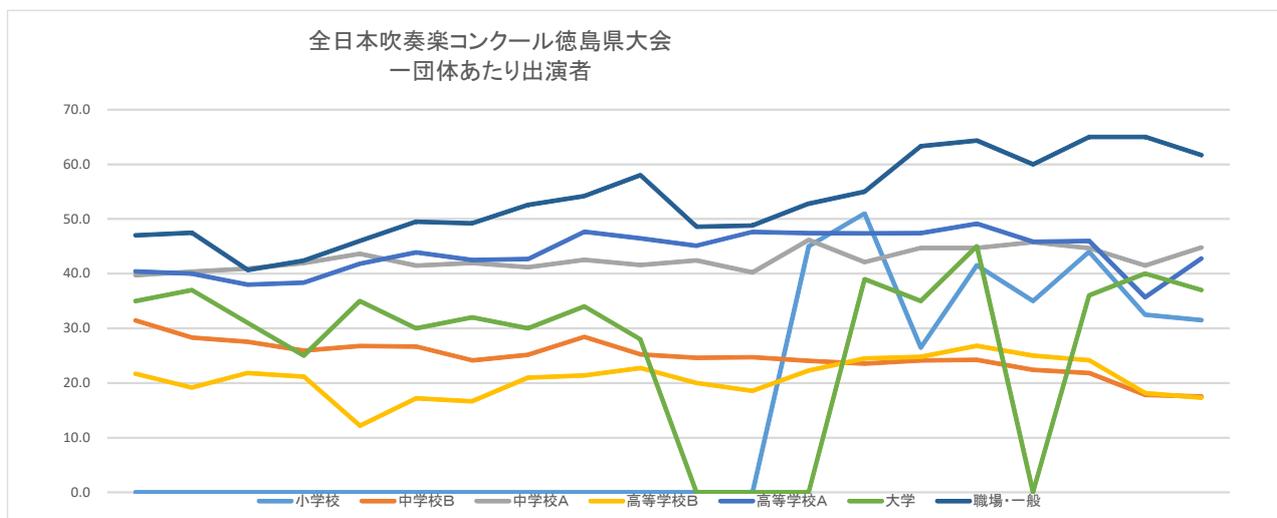


最後に、出場部門別の一団体あたりの出場人数の推移を見てみると、ほとんどの部門で増加している【表5】。中学校B部門と高等学校B部門は、2年前より上限が20名に変更された影響がある。また、職場・一般部門も過去は別々の部門で開催され、全国的な職場団体の減少により、統合され、職場・一般部門として開催されている。一般部門は無制限であったが80名→65名と上限が変更になった。逆に、高等学校A部門は上限が55名になっている。

最近、出版社からは少人数バンドのために書かれた楽譜が多く出版され、人数が少なく、編成が十分に組めない団体にとっても、選曲の幅が増え、活動内容が充実する一因となっている。

【表5】一団体あたりの出場人数の推移

	1999	2004	2009	2014	2018	増減
小学校	0	0	0	41.5	31.5	+31.5
中学校B	31.4	26.8	24.6	24.3	17.6	-13.8
中学校A	39.7	43.6	42.4	44.7	44.8	+ 4.1
高等学校B	21.7	12.2	20.0	26.8	17.3	- 4.4
高等学校A	40.4	43.9	45.1	49.1	42.8	+ 2.4
大学	35.0	30.0	0	45.0	37.0	+ 2.0
職場・一般	47.0	49.5	48.6	64.3	61.7	+14.7



4 アンサンブルコンテストから検証

夏に開催される吹奏楽コンクールは、1～3年生が出場できるが、3年生が引退して実施されるアンサンブルコンテストの参加チーム数を見ていると、こちらも年々増加しているのがはっきりとわかる【表6】。アンサンブルコンテストは、1チーム3～8名で構成されるコンテストである。吹奏楽コンクールが終わってから冬場のトレーニングを目的として考えられ、徳島県は全国に先駆けて開催している。そのため、実施回数は全国大会より4回多い。30年前は1日半で開催されていたが、年々参加チーム数が増え、2日間開催になり、それでも収まらず、現在は中学校と高等学校部門で12月末に予選を実施している。このコンテストでは中学校部門が20年間で倍増している。近年の傾向として、都市部だけ

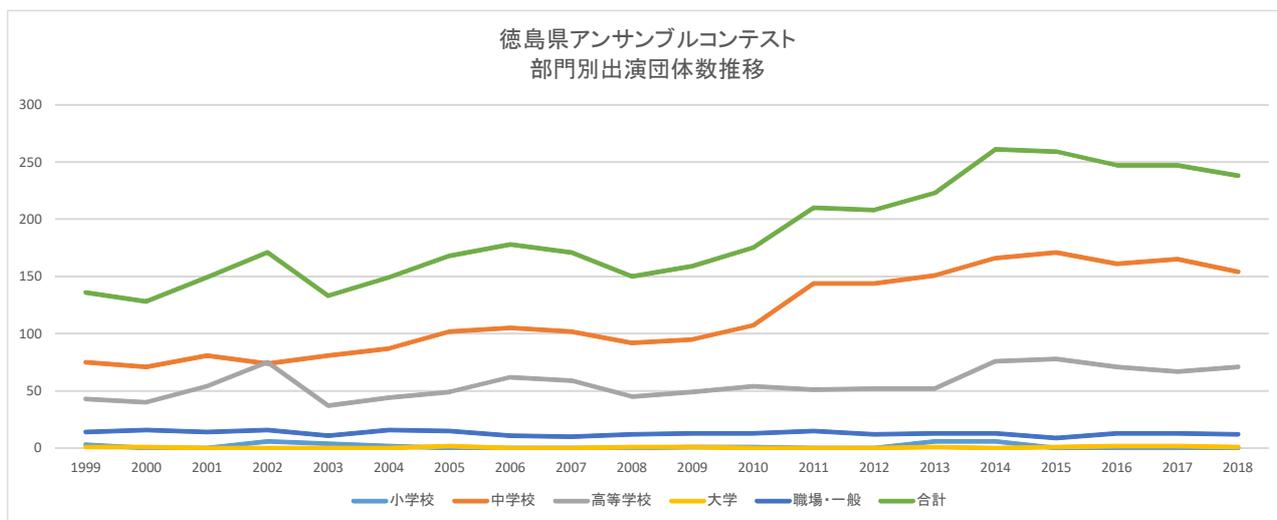
ではなく、郡部の中学校からの参加も増えてきている。当初は、1校の出場チーム数を制限していたが、多くの吹奏楽部員がアンサンブルに取り組めるようにと考え、上限を撤廃し、より予選に参加しやすい大会へと見直しされた。この規約改正も参加チーム数の増加に大きく影響していると思われる。

20年間の出場者数のデータが揃っていないため、ここでは割愛するが、チーム数が増えていることから、出場者数が増えていることは容易に考えられる。

なお、このアンサンブルコンテストには、吹奏楽部だけではなく、オーケストラ部やマーチングバンド部からも参加している。徳島市加茂名中学校や徳島市徳島中学校や県立城東高等学校である。吹奏楽だけではなく、実施規定に合致すれば参加できる。

【表6】出場団体数の推移

	1999	2004	2009	2014	2018	増減
小学校	3	2	1	6	0	-3
中学校	75	87	95	166	154	+69
高等学校	43	44	49	76	71	+28
大学	1	0	1	0	1	±0
職場・一般	14	16	13	13	12	-2
合計	136	149	159	261	238	+102



5 社会人バンドの現状

一般部門は、吹奏楽コンクールの出場団体数の過去最大数は2002年の8団体であったが、年々減少し、活動する団体が固定されて来ている。現在、活動している3団体（徳島吹奏楽団、BMS ウインドアンサンブル、吹奏楽団アババイ）に共通していることは、

- ①練習場所
- ②打楽器を団所有
- ③団員に教員がいる

ことなどが挙げられる。多くの団体が、中学校や高等学校OB吹奏楽団として活動を始めたが、上記の3点で苦勞するところが多い。学校を使用する場合、学校施設や楽器の借用でトラブルになることがある。また、顧問の異動があり、継続して活動することが難しい。

また、自治体などのバックアップを得ることが難しいことも考えられる。

一方、アンサンブルコンテストだけに出ている団体は、人数が少ないため、吹奏楽団に比べて練習場所の確保が容易ではあるが、継続して活動している団体は限られてくる。前出の3団体以外で10年以上活動している団体は、アニュテフルートカルテットとWeeds Saxophone Quartet の2団体である。

6 徳島県吹奏楽連盟のこの20年間の主な取り組み

連盟として、吹奏楽の発展にいかにかサポートできるかを考え、次に挙げることを実践してきた。直接、加盟団体がサポートに寄与していないものもあるが、運営の簡素化も吹奏楽の活性化につながると確信し実施してきた。

(1) 連盟組織の整備・整理

- ① 各大会規定や内規の整理
- ② 次長や会計を置き、後継者の育成
- ③ 会計規約の整理
- ④ 褒賞規定の設定
 - ・児童・生徒・学生の表彰
 - ・長年各種大会に出場している演奏者の表彰
 - ・長年顧問をしている指導者の表彰
 - ・長年連盟の役員の表彰

(2) 全国トップクラスの吹奏楽団による県内演奏会や講習会

- ① 茨城県立大洗高等学校
- ② 大阪府立淀川工科高等学校吹奏楽部
- ③ 大阪桐蔭高等学校吹奏楽部
- ④ 龍谷大学吹奏楽部 3回
- ⑤ 大阪市音楽団（現 オオサカ シオン ウインド オーケストラ） 2回

(3) 吹奏楽コンクールについて

- ① 大会日程の見直し
 - ・二日間から二日半日開催へ（10時開始，17時終了）
- ② 審査員について
 - ・県外のプロ演奏家に依頼（木管2名，金管2名，指導者か打楽器1名）
 - ・オーケストラ団員でも吹奏楽を指導している方
 - ・連続3年依頼
 - ・審査集計一覧の顧問への即日公表
- ③ ビデオ業者の導入
- ④ 参加費を出演人数から団体へ
- ⑤ 出演者のプログラムを購入制へ
- ⑥ チラシの挟み込み禁止
- ⑦ トラック・バスの専用駐車場の確保
- ⑧ 大会役員の公募（出演団体より）

(4) アンサンブルコンテストについて

- ① 大会日程の見直し
 - ・中学校と高等学校の予選の実施
 - ・一団体の出場団体上限の撤廃
- ② 審査員について
 - ・県外のプロ演奏家に依頼（木管2名，金管2名，打楽器1名）

- ・吹奏楽を指導している方
 - ・人数を3名から5名へ
 - ・連続3年依頼
- ③ 出場全チームに賞状
- (5) 管楽器指導者講習会の講師を県外のプロ演奏家に依頼
- ① 県内在住講師から県外プロ演奏家へ
 - ② リーダー養成講座の実施
 - ③ クラリネットに特化した講習会
- (6) 会計の見直し
- ① 参加費の見直しやプログラム代金の統一
 - ・吹コン，小フェス，マーコンが団体ごとに
 - ・参加費の入金を全て財務部へ
 - ② 連盟備品の一括管理
 - ・各事業部から事務局へ
 - ③ 審査員との懇親会を中止
- (7) 合同演奏会の開催
- ① 吹奏楽フェスタ in 徳島の開催
 - ② 吹奏楽コンクールにおいて，記念大会での合同演奏
- (8) 出演団体へのアンケートの実施
- ① 年度末に加盟団体へ，一年間の連盟行事についてアンケートの実施
 - ② 吹奏楽コンクール四国支部大会を主管した時に，出演団体へ運営のアンケート
- (9) インターネット環境の充実
- ① ホームページ各大会申込書のダウンロード
 - ② PDFファイル，一太郎ファイル，Excelファイルを用意
 - ③ 大会結果の即時アップ
 - ④ Facebook の開設

7 成果

連盟の取り組みの成果ではないが，学校における吹奏楽部員の割合が高くなるにつれ，加盟団体は着実に力をつけ，幾度と四国大会で上位になり，全国大会に出場した【表7】。吹奏楽コンクールにおいては，徳島市富田中学校や徳島市国府中学校，徳島市城東中学校，鳴門市第一中学校，四国大学，BMSウインドアンサンブル，マーチングコンテストにおいては，徳島市加茂名中学校や県立城ノ内高等学校，県立徳島商業高等学校（フェスティバル部門），小学校バンドフェスティバルにおいては，徳島市国府小学校や徳島市八万南小学校，アンサンブルコンテストでは徳島市国府中学校や徳島市城東中学校，県立徳島商業高等学校，鳴門教育大学が複数回全国大会に出場している。

私が楽器を始めた35年前に言われていたことは「四国は全国から10年遅れている。徳島は更に10年遅れている」と全国の流れに乗っていない県の状態であった。20年前に役員として，吹奏楽コンクールやアンサンブルコンテストの支部大会に行った時は，徳島県代表団体の演奏時間になると客が席を立ち，ロビーに出て行く姿を多く見られた。逆に，他県の全国大会常連校がステージに上がると客席は溢れるばかりの聴衆で埋め尽くされていた。その光景は，県のレベルが徐々に上昇することによって，見られなくなった。徳島県代表団体が注目を浴びるようになったことは言うまでもない。これもここまで来るまでに

顧問をはじめ、多くの方の努力があったからこそである。

【表 7】 過去20年間に全国大会に出場した団体

年度	吹奏楽コンクール	小学校バンドフェスティバル	マーチングコンテスト	アンサンブルコンテスト
1999		国府小学校	加茂名中学校 徳島商業高等学校	城北高等学校
2000		国府小学校	城東中学校 城ノ内高等学校	
2001			加茂名中学校 城ノ内高等学校 徳島商業高等学校	
2002		国府小学校	加茂名中学校 城ノ内高等学校 徳島商業高等学校	
2003	徳島商業高等学校	国府小学校	加茂名中学校 徳島商業高等学校	徳島商業高等学校
2004		国府小学校	城ノ内高等学校	
2005		八万南小学校	加茂名中学校	徳島文理大学
2006	BMSウイントアンサンブル	国府小学校	加茂名中学校 城ノ内高等学校 徳島商業高等学校	
2007	城西中学校	国府小学校	加茂名中学校	
2008	国府中学校	国府小学校	城ノ内高等学校	
2009	国府中学校 BMSウイントアンサンブル	桑島小学校	加茂名中学校 城ノ内高等学校	
2010	国府中学校	国府小学校	加茂名中学校	
2011	鳴門市第一中学校	国府小学校	加茂名中学校	
2012	国府中学校	国府小学校	城ノ内高等学校	
2013	国府中学校 BMSウイントアンサンブル			国府中学校 BMSウイントアンサンブル
2014		国府小学校	加茂名中学校	国府中学校 徳島商業高等学校
2015	国府中学校	国府小学校	加茂名中学校	徳島商業高等学校 La・Relu Brass Z
2016	四国大学	国府小学校	加茂名中学校	城東中学校 鳴門教育大学
2017	城東中学校 四国大学	国府小学校	加茂名中学校	城東中学校
2018	国府中学校 城東中学校 四国大学	国府小学校 城東小学校	加茂名中学校	城東中学校

8 目に見えないところで

各種大会において、連盟役員をはじめ、多くの方々の善意によって運営がなされ、記録には残らないが記憶に残る大会となっている。

(1) 大会準備や運営について

- ①新しい指導法や技術習得を求め、部単位や個人で県外に出かける指導者が増え、演奏技術だけではなく、部活動の運営方法も学び、県内に取り入れるようになった。
- ②吹奏楽コンクール初日の運営は、引き受けが無く、事業部で苦勞していたが、徳島中学校オーケストラ部が担当になり、出演者の負担が少なくなり、スムーズに運営できるようになった。

(2) 観客のマナー向上

20年前の大会後の会場には、ゴミが多数落ちていた。出演者用のプログラムは出演者数にプラス10部を無料で配布していたため、不必要になったプログラムや、プログラムに挟み込まれたチラシや空き缶など。これを見直して、プログラムを注文制にし、チラシの挟み込みの禁止、またプログラムへ1ページにわたる「会館内での注意事項」の掲載、また連盟役員の巡回指導などの効果が現れ、ゴミの量は激減した。

また、大会後、学生スタッフによる会館内のゴミ拾いが自主的に行われている。このことも、ゴミの減少の一因であることは確かである。

9 今後の課題について

(1) 文化部活動の在り方に関する総合的なガイドラインについて

平成30年12月に文化庁によって制定された「文化部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」によって、吹奏楽部の活動に制限ができ、運営に悩んでいる顧問が多数いる。聞かれた声の中に「テスト期間中の休みがあるから月の半分も練習できない」や「警報が発令されたり、熱中症対策のため活動ができない」などである。この状況をクリアされるための対策が必要と思われる。特に徳島県は私学の学校が極端に少なく、ほとんどが公立学校に進学し、ガイドラインの指示に従わなければならない。

(2) 発表の場所の減少

上記のガイドラインによって、発表の場所の減少が起こってくる。運動部によっては、出場する大会の厳選が通達されているところがある。まだ、連盟の多くの行事は全国大会に通じているため、出場は可能であるが、講習会などへの参加の見送りが考えられる。

(3) 学校備品の老朽化

学校備品の老朽化が深刻な問題である。過去は大きなイベント（国民体育大会、全国植樹祭など）の本県開催時に整備されていたが、この20年はこういったイベントでの県下全体への整備は行われていない。国民文化祭を2回本県で開催されたが皆無であった。学校備品で不足している学校は、個人所有の楽器に頼っているのが実情である。そのため、保護者の負担は大きく、子供に楽器をさせる時の妨げになっている。全国で有名な学校は逆に、個人所有の楽器を使わず、学校備品だけで活動してる。全国トップレベルの私立高校では、初年度に5,000万円の投資があり、部費も年間5万円に抑えられ、保護者の負担の軽減に努力している。

(4) ホールの問題

県内には、2,000人収容ができ、音響の備わったホールが無い。そして、2階席以上があるホールも皆無に近い（徳島文理大学むらさきホール、鴨島公民館）。県外の大会に出場すると2階席以上あるところがほとんどである。例えば、愛媛県はひめぎんホール、香川県はレグザムホールやサンポートホール、ハイスタッフホー

ル、高知県は、県民文化ホールやかるぼーとである。四国3県には、収容人数が多く、大きなイベントを開催しても、耐えることができる。県内の観客だけでなく、県外の観客も上手に取り込んでいる。それは、観客にも同じことが言える。例えば、入場料でも差が出たことがある。某オーケストラの演奏会の入場料が愛媛県では2,500円、徳島県では5,000円である。

また、1,500人収容できるホールが鳴門市文化会館だけであり、有名な楽団が来県して、演奏会を開催する時に児童・生徒の交通手段が少なく、ホールに足を運べない状況である。

(5) 指導者・顧問の育成

この問題は、永遠に続く問題である。多くの児童・生徒が楽器に触れ、指導者を目指し、県外の音楽大学・学部に進学しているが、大学卒業後県内に帰らず、県外で活躍していることが多い。そして、指導者となっても、楽器を扱えない指導者が多いのが実情である。また、外部講師に頼りすぎてしまい、部の運営に苦勞する話をよく耳にする。

逆に、音楽以外の教科で、吹奏楽部経験者が増えてきている。小規模校が増え、音楽教員が常勤で配置されていない学校では、音楽教員以外で指導のできる教員が重要になってくる。

(6) メディア露出の拡大

各学校HPを見ても、吹奏楽部の活動状況の掲載が少ない。校務多忙もあると思われるが、外部発進力が弱い。また、テレビや新聞などの吹奏楽関係の記事は非常に少ない。中学校で6.5%、高等学校で2.6%の生徒が吹奏楽コンクールに出場している。実際に吹奏楽部に所属している割合はもっと高いはずである。もっとメディアに活動状況が報道されるよう努力が必要である。

(7) 団体相互の交流

生徒との話で「他の学校との交流がない」とよく耳にする。県内では、合同演奏会が行われていない。合同練習会もあまり耳にしたことがない。中学の同級生に大会で会っても、交流は少なく、お互いの演奏を聴くことも出演順のため、少ない。

吹奏楽フェスタや合同練習会などに積極的に参加し、交流し、お互いに切磋琢磨することが必要ではないだろうか。

(8) アンサンブル・コンサート

吹奏楽コンクールでは、合同演奏会を定期的に行っているが、アンサンブルでは開催されていない。各団体での単独開催は難しいため、合同による演奏会を開催して、アンサンブル力向上や意識向上を考えても良いのではないか。

10 小学生バンドフェスティバルと徳島県小学校管楽発表会について

手元にあるプログラムは8年前の2010年度(平成22年度)に開催されたものである。その時に吹連主催で開催した小学校バンドフェスティバルのデータと比較してみる。

徳島県では、徳島県小学校管楽教育連盟主催の発表会が毎年、1月末に二日間にわたって開催されている。この発表会は、県下の小学校単位で参加し、編成は4種類に分けられる。トランペット鼓隊(TP)、ファンファーレバンド(FB)、金管バンド(BB)、吹奏楽(WB)である。人数は10名から67名と幅が広く、演奏技術にも大きな差がある。当時の学校数(本校)が258校、児童数が41,408人であり、6.9%の児童が参加していた。一方の小学校バンドフェスティバルは、わずか0.4%にすぎない。時期や大会趣旨が違うが、これからの小学校バンドフェスティバルを考える上で、このデータは考えられるものがある。小学校バ

ンドフェスティバルを活性化するためには、いかにこの発表会に出演している学校を取り込むかを考える必要がある。しかし、多くの小学校が問題を抱えており、スムーズに連盟主催の行事に参加することはできないと思われる。学校の考え方や保護者の意向、経済的な面などクリアしなければならないことがたくさんある。

【表 8】2010年度(平成22年度)小学校バンドフェスティバルと徳島県小学校管楽発表会

	小学校バンドフェスティバル		徳島県小学校管楽発表会	
	学校数	出演者数	学校数	出演者数
マーチング	4校	169名		
トランペット鼓隊			1校	39名
ファンファーレバンド			2校	77名
金管バンド			63校	2,524名
吹奏楽			5校	218名
合計	4校	169名	71校	2,858名

11 おわりに

この20年間、多くのことに挑戦させて頂き、御協力して頂いた皆さんに感謝申し上げます。一つの夢の実現は、自分一人では何もできません。一緒に夢を語る仲間がいて、一緒に協力してくれる仲間がいてこそ、達成できるのが“夢”だと思います。

連盟の役員をはじめ、県内外のプレイヤーと交流ができ、多くの情報交換ができて、多くのことを達成することができました。本当に、ありがとうございました。

— 稲垣 達也 —

徳島県吹奏楽連盟事務局長・第1事業部長
 徳島県立城北高等学校 教諭(数学)
 BMS ウインドアンサンブル 事務局・サクソフォン
 Weeds Saxophone Quartet 代表